

# 磐梯山登山道の状況

**【目的】** 磐梯山は磐梯朝日国立公園内にあり、深田久弥氏の日本百名山にも数えられ、日本ジオパークにも認定されていることから一般登山愛好者はもとより学校登山や百名山ツアーなど日本各地から多くの登山者が訪れる。

一方、道迷いや滑落するなどの登山者が後を絶たない。訪れる登山者に安心して安全に楽しんでもらうために、登山道の道標や看板、危険箇所の整備が必要である。また、貴重な高山植物の保護及び近い将来を見据えた地形の変化等の監視も重要な課題であると思う。

以上のこと踏まえて、自然保護の状況、各登山道の危険箇所、自然保護及び安全上の要継続監視箇所、道標や看板の状況、表示希望箇所、登山口の状況などについての登山道の状況を調査したのでここに報告する。

【調査日】	6月26日 裏磐梯コース	7月22日 赤埴林道コース
	8月 1日 八方台コース	8月22日 翁島コース
	9月23日 猪苗代コース	10月19日 裏磐梯コース
	10月28日 渋谷コース	11月 6日 川上コース（下山）

**【調査者】** 江花 俊和（猪苗代山岳会、日本山岳会、HAT—J）

**【結果】** 結果の具体的な内容については、4ページ以降に記載しています。

自然保護 No. 1	お花畠の踏み込み跡
No. 2	赤埴山のビニールシート群
No. 3、4	携帯トイレ回収ボックス
No. 5	携帯トイレ用ブースと案内
No. 6、7、8	コウリンタンポポ
No. 9、10	コウリンタンポの駆除
No. 11、12	踏込予防ロープ
No. 13、14、15	貴重な植物
要継続監視箇所 No. 1、2 (安全)	火口の土石流
No. 3	火口中央の地形
No. 4、5、6	火口壁の階段
要継続監視箇所（自然保護）	
No. 1、2、3、4	火口壁の植生
危険箇所 No. 1、2	狭い山腹の道
No. 3	大石の転落
No. 4	道不明瞭
No. 5、6、7	岩とロープ

登 山 道	No. 1、2	ぬかるみ
(要改善箇所)	No. 3、4	橋
	No. 5	草木の繁茂
	No. 6、7	倒木
	No. 8	立入禁止ロープ
道 標 ・ 看 板	No. 1	杭に倒れ
	No. 2、3	支柱の破損と道標の落下
	No. 4	文字不鮮明
	No. 5、6、7	老朽化
	No. 8	落下・不鮮明
	No. 9	不鮮明
	No. 10、11、12	熊による破損
表 示 希 望 箇 所	No. 1、2	遙拝所跡
	No. 3、4	賽ノ河原
	No. 5	四合目
	No. 6	天狗岩
登 山 口	No. 1、2、3、4	
	5、6、7、8	各登山口
川上コースの変更	No. 1、2、3	案内板、標識
その他（参考）	No. 1	無雪期のイエローフォール
	No. 2	干上がった銅沼
	No. 3	奇妙なバランス

【考 察】 1. 磐梯山は6つの登山口（赤埴林道は除く）、7つのコースがあって登山道の管理が容易ではないが、道標の立て替えや火口壁の階段設置などが実施され、毎年山開きの前には登山道の点検・整備を実施し、7月から8月にかけて各登山道の刈払いが行われている。

しかし、県外の百名山を歩いて感じることは、全国的に有名な磐梯山としては道標、説明看板、橋、足場、ぬかるみなどの登山道の整備や案内の見劣りは否めず、訪れる登山者の期待に応えていないどころか失望を感じさせていることが伺える。登者が安心して楽しく歩ける登山道への取組みが必要である。

また、登山口の看板や山頂の標識の標高が修正されていないので早急な対応が望まれる。

2. お花畠の立入禁止の箇所への踏込み跡が数箇所見られるので、自然保護上これらを含めて対策と見直しが必要である。この踏込みは展望を楽しみたいからだと思われる所以、1ヶ所を開放することも必要と思われる。

また、火口跡のシラタマノキの群落及び固有種のバンダイクワガタは貴重なものであり、加えて自然保護4項に述べたマツムシソウ・白いホタルブクロ・白いガクウラジロヨウラクも珍しいと思うのでしっかりと監視していくかなければならないと思う。

3. 携帯トイレは大分普及したものの、登山道周辺にまだ跡が残る。トイレの無い登山口には簡易トイレの設置が必要と思う。また、携帯トイレを宿泊施設に置いてもらうなど普及策が望まれる。ちなみにトイレのない登山口は、翁島、猪苗代、渋谷、川上である。
4. 噴火口跡については、土石流の発生が起きやすいため登山道の監視が重要である。また火口跡には落葉松やダケカンバ、低灌木類の樹木が広がってきている。噴火後の地形や植生の変化にも目を向けていかなければならないのではないかと思う。
5. 標識や看板が熊によって壊されている。これはペンキに含まれる成分が熊を刺激するのではないかと思われる。今後はこの事を考慮する必要がある。
6. 外来種である登山口周辺のオオハンゴンソウや山中のコウリンタンポポの繁茂が著しいので早急な駆除の検討が必要であると思う。
7. 本報告を含めて県や町に改善を求めてきたが、なぜ実効があがらないのかについて知りたい。話し合いの場が欲しい。